

2015年度



以心 × 電信

看護教育委員会



みんなで育てよう！看護のこころ

One for all. All for one.

2016 03/16 発行 No.3

ケース発表会

2/27(土)に平成27年度、ケース発表会が行なわれました。教育対象者は、学習段階に応じたテーマに沿って患者さんを選び看護展開をし、学習を重ねていきました。患者さん、また病院スタッフの皆様のご指導と、ご協力のおかげで多くの学びや気づきがあり、ケースを発表することができました。これらの学びを大切にして、新年度も学習や看護技術の習得、業務に取り組んでいってくださることでしょう。



看護実践は12月までに終了！！

論文提出2月20日！！



みんなで集合写真



ケーススタディを終えて

「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「まわりと協働する力」「意思決定を支える力」これらは「看護実践能力の核として必要な4つの能力」と言われています。医療提供体制が変わっていく中で、どの場においても、「ニーズをとらえる力」と『ケアする力』は看護師の普遍的な基礎的能力です。そして、これらは自然と備わるものではなく教育と経験の中で培われていくものだと思うのです。しかしながら、学校を卒業した後の臨床現場では、気が付くと患者と向き合う時間がほとんど無いまま、毎日が過ぎていきます。

教育を担う管理者として、看護師が看護師としての役割を遂行できるように、環境を整えることも重要だとは思いますが、たとえ時間を作ることが出来たとしても、必要な能力が衰えていたり、養われていなければ何なりません。ケーススタディを通して患者と向き合い、「ニーズをとらえ」「ケアする」ことを考え実践していくことは、看護師として重要な「学びの場」なのです。

ケーススタディを通して対象者は、多くの学びを得ることが出来ました。関わってくれた指導担当者や委員、チームの先輩方が少しでも「看護とは」と考えを巡らせ、患者中心のカンファレンスや看護過程についてディスカッションする時間が出来たら、皆の「学びの場」となったのではないかと思います。そして、このような「学びの場」を作ることこそが教育委員会の役割だと考えています。



ケース発表を終えて



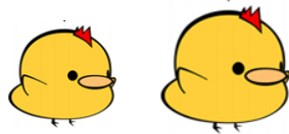
3年間のケースが終わり、達成感・満足感・充実感をあじわう事ができました。今後も少しずつでも前進できるように頑張っていきます。



今回入職して初めてのケースレポートでしたが、自身の不足している事や看護の視点を客観的にみることができ、今後の自身の看護観に反映して行きたいと思いました。



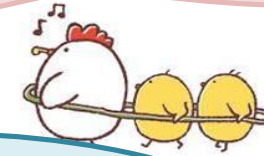
疾患や治療について知識が不足しており責任を持って看護を行えなかった。来年度は外科混合病棟で関わっている疾患に対して責任を持ち、看護を行っていきけるよう学習していく。



リーダー業務や夜勤も始まっている中、少しずつ慣れてきている反面インシデントも起こしてしまっている。分からないことがあれば今まで以上に相談を行っていきミスのないよう慎重に業務を行っていきたい。3年目に入るため、後から入ったスタッフに助言を行っていくことなど、ケースでの学びを活かしてアセスメントする力を養っていきたい。



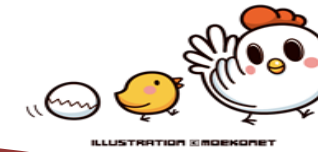
今年度は自ら積極的にケーススタディに取り組むことができた。論文を作成する段階で、「もっとここを聞いておけばよかった。」「こうしておけばよかった。」と悔やむことが多くあり、自身の未熟さを感じた。しかし、そこから学ぶことも多くあり、良い振り返りもできたためよかった。



2年目のケース発表では、論文作成の要領を少し理解していたため、昨年よりスムーズに行うことができました。今回感じた思い等を今後の業務に活かして頑張りたいです。ケースに関わった人たちに感謝しています。



患者さんが入院してから退院するまで、退院後の生活まで考えていく、継続看護の必要性や大切さ、難しさを学びました。患者さんのアセスメントがスムーズに行えるよう今後も努力していきたいです。



状態が変化した時の細かい記録や誰が見ても分かる記録が出来なかった。同僚とのコミュニケーションは、同期がいらないという事もあるが自分からなかなか行けなかったと思う。少しずつではあるが時間内にどう動けばいいかなど考えられるようになったと思う。

27年度は「現場で育てる。現場も育つ。」を目標にして教育委員会は活動してまいりました。スタッフの皆様、ご協力頂きありがとうございました。4月よりまた新人さんを迎える予定です。2年目・3年目を迎える教育対象者を含め、来年度もご指導、ご支援をよろしくお願い致します。

看護部教育委員会 広報紙担当:戸崎・伊藤・岸

